

## 5 地域社会のために

# だれもが暮らしやすい町になるように、 地域の人々とともに活動しています

わたしたちは、全国各地の事業所を通じて、地域社会に根ざした活動を行っています。認知症の人とそこのご家族へのサポート活動、スポーツやイベントを通じた支援などをご紹介します。

## 「認知症サポーター養成講座」を開催し 認知症の人々の支援をしています

東邦ホールディングスは、2009年から厚生労働省の「認知症サポーターキャラバン」に参加しています。認知症サポーターキャラバンは全国キャラバン・メイト連絡協議会が運営し、自治体や企業などと協同で認知症サポーター養成講座の講師「キャラバン・メイト」を育成しています。認知症サポーター養成講座を受講すると「認知症サポーター」として認定されます。東邦ホールディングス全体では2017年3月末時点でのべ3,297人が講座を受講し、認知症サポーターとして認定されました。講座で身につけた知識に基づいて業務に取り組むほか、職場を離れたときもひとりひとりが地域住民の一員として、認知症の人およびそこのご家族と積極的に接していくことを心がけています。

## 調剤薬局で「みらいカフェ (認知症カフェ)」を開催しています

東邦薬品(株)の管理栄養士チームは、病院やクリニックで栄養食指導を、調剤薬局で栄養相談会を開催しています。管理栄養士チームとファーマクラスター(株)の子会社である(株)ファーマみらいのヒロ薬局古河店(茨城県古河市)は、積極的に地域社会に貢献したいと考え、古河市役所へ相談しました。その結果、薬局店舗を会場とし、古河市民を対象とする認知症サポーター養成講座が実現し、2回で50人の認知症サポーターが誕生しました。認知症サポーターとともに、認知症の人への支援の輪を広げるために、2016年5月から毎月、同店舗において「みらいカフェ」という名称で認知症カフェ(認知症の人や家族が集まる場所)を開催しています。

認知症の人とご家族だけでなく、認知症サポーターや地域の人にも気兼ねなく参加できるように、飲み物とお菓子を薬局で用意しています。嚥下困難な患者さまでも食べやすい「やわらか食」の食材を使ったお菓子を管理栄養士が手作りする

ときもあり、参加者に喜ばれています。薬剤師や各分野の認定看護師、地域包括支援センターのスタッフが講話をし、管理栄養士が栄養相談会をするほか、認知症の人といっしょに脳トレをしたり、告知用のポスターを手作りしたりして、楽しい時間を過ごしていただいています。今後、他の薬局でも「みらいカフェ」を開催していけるように努力してまいります。



ヒロ薬局での「みらいカフェ」

## 「どこシル伝言板」によって 認知症の人を見守っています

グループ会社の(株)みらい町内会は、認知症の人の保護情報共有サービス「どこシル伝言板」を開発し、2016年に各自治体に向けてリリースしました。開発のきっかけは2014年8月に起こった身元不明高齢者の死亡事故でした。「せめて認知症の人とわかっていれば……」「すぐにご家族に連絡がとれていれば……」。こうした思いからQRコードを利用した情報共有サービスの開発を思い立ちました。

認知症の人の服や杖に貼られたQRコードのラベルシールを発見者がスマートフォンで読み取るだけで、すぐにご家族と自治体の担当者に第一報のメールが届きます。発見者が「発見場所」「現在の居場所」などを入力すると第二報が届きます。発見者の画面には、あらかじめご家族が登録した「保護時に注意すべきこと」も表示されます。「おじいさん」と話しかけると怒りやすくなるので、「先生」と話しかけてください」などと対応の仕方を載せておけるので、ご本人も発見者も落ち着いて会話をすることができます。

大きな長は、ご本人もご家族も発見者も氏名や住所などの情報を登録・入力する必要がないため、個人情報保護の観点から安心・低コストで管理・運用することができる点です。自治体から高く評価され、2018年1月までに13都県の

17市1町で導入されています。認知症の人がますます増えることが予想されるなか、今後も普及に力を尽くします。



(左、右上)服や杖に貼られたQRコード付きラベルシール。(右下)QRコードの左には自治体名が印刷される

## 募金型飲料自販機を通して 寄付を行っています

東邦ホールディングスは、1996年から認定NPO法人「ジャパン・カインドネス協会」が運営する募金型飲料自販機を導入しています。募金型自販機で飲料を買うと、購入金額のなかから1円と飲料メーカーから1円の合計2円が社会福祉団体などに寄付される仕組みです。自販機のボタンを指で押すことから、「ゆび募金」とも呼ばれています。

また、東邦ホールディングスの自販機総数は、2017年3月末時点で237台ですが、そのうちの152台が災害時にはお金を入れずに使用できる災害対応自販機です。

## エコキャップ回収活動に参加し、 その輪を広げています

東邦ホールディングスは、グループ会社、事業所、部署ごとにエコキャップ回収活動に取り組んでいます。2016年度は、本社、物流センター、営業所などからペットボトルのキャップを2万7,606個回収し、特定非営利活動法人「キャップの貯金箱推進ネットワーク」に提供しました。キャップは再資源化され、その売上が発展途上国の子どもたちへのワクチン購入費として活用されます(約32人分のワクチン購入費に相当)。上記以外のグループ内の事業所から回収された1万158個のキャップは、小学校などの各種団体へ寄付されました。

## 「スフィーダ世田谷FC」のオフィシャル パートナーとして地域活動を進めています

東邦ホールディングスの母体である東邦薬品(株)は、1948年に東京都世田谷区で創業しました。以来、この地に本社を置き、世田谷区内でさまざまな地域活動に積極的に取り組んできました。2013年からは世田谷をホームタウンとする女子サッカークラブ「スフィーダ世田谷FC」のオフィ

シャルパートナーとして支援をスタートしました。

「スフィーダ世田谷FC」は2001年4月に「サッカーに対し熱く純粋な想いを持った女性へ最適な環境を提供すること」を目的として設立され、スポーツ活動を通じて地域社会へ参加し、良好なコミュニティを築くことをめざしています。これからも「スフィーダ世田谷FC」とともに、地域振興に貢献していきます。

## 大学生へインターンシップの場を 提供しています

東邦ホールディングスは、大学からの推薦を受けた学生に対して医薬品卸売事業部門と調剤薬局部門でインターンシップを実施しています。医薬品卸売事業部門では、2016年度は文系・理系の学生13名、薬学部の学生12名が参加しました。調剤薬局部門では、2016年度は311名の学生が参加しました。

## 演劇イベントへの協賛を通して 高校生の文化活動を支援しています

東邦ホールディングスは、世田谷パブリックシアターが実施する舞台芸術普及プログラム「未来の舞台人を創る」に協賛しています。2016年度の「未来の舞台人を創る」のプログラムには、24校の高校から132名の生徒を割引料金で招待しました。

## チャリティープロジェクトに協賛して 障がい者の就労などに協力しています

わたしたちは「世田谷アートタウン」のイベント「フラッグリサイクルプロジェクト」に協賛しています。毎年、期間中に世田谷区の街灯路に社名などを記したフラッグ(旗)が掲げられますが、障がい者のみなさまの就労につながるように、世田谷区の福祉作業所に委託して、フラッグをエコバッグやトートバッグ、文房具入れにリサイクルしています。

## 「TBC 阪神」が大阪府伊丹市の 消防訓練に協力しました

近年、大規模施設の防災について全国的に重要性が高まっています。当社グループでは災害対策訓練を全社規模で実施しているほか、「TBC 阪神」では、地元の消防署の要請を受けて、2017年11月17日に合同の消防訓練を行いました。